号せらるるなり

第四 徳家 攻軍付 高田利家ヶ事

去程に北国の諸軍勢各所後陣に来
く陣を取りしを或は柳瀬の道に居るしあ
り又は七里半の山中をこらさし軍勢
を出すもあり親父を捨て主君に忠を致
わく道ばと迷て行く大拙は第四攻門を搦
ハ狐隙を出て陣をもるる余岩の色
に南て陣屋の高矢さけびのこえ移く少へ
ろ小波云ふ聞く時分攻のしらせて陣中騒

立ち大方打ち取る水鄭少花多ら
花御を色来て攻軍の中を告げしら仕法人
色義にこハいろ小ちんとひしめきりにて
や稜に小屋まて七ち金箔の軍勢も今も
こ千ハ呼ちり馬家いろ打ち根小血
をそき名改乗ちの見えて用して味
方と有を仕りつるよ今い悔ひて
甲賀ち富小海夫花ち十一歳して自害
せんと有を勢夫ハ有をあり
ちの色をこ出こも紙も見ん侍途中小